



第 87 回(平成 25 年 7 月 10 日)定例会の講演要旨

札幌の天気予報の歴史と天気特性

札幌管区気象台 予報官 北原 達也 氏

I 天気予報の歴史

○ことわざや観天望気時代 (16C 以前)

夕焼け 西に雲がないので翌日は晴れる。

太陽や月に傘がかかる 薄い雲は低気圧の前触れなので天気がくずれる。

これは春、秋には低気圧が西から東に進むので予測可能。

○測器の時代 (17C 初一中)

ガリレオ (伊) が温度計を発明、トリチェリ (伊) が気圧計を発明。

○天気図の時代

1820年 ブランデス (独) が初めて天気図を作成し、気圧配置と天気の関係を明らかにした。

日本では1883年、クニッピングの尽力で東京気象台が初の天気図を作成、暴風警報を発令。1884年6月1日、1日3回の天気予報を開始。記録に

よると朝6時の天気予報では「全国一般風向キハ定リナシ。天気ハ変リ易シ。但シ雨天勝ち」とある。なかなかの名文ではないでしょうか。

1925年 ラジオによる天気予報開始。

1957年 テレビによる天気予報開始。

1959年 気象庁、IBM コンピュータ704を導入。(ちなみに24時間の予報のためのデータ計算手作業では1ヶ月を要するためこれまで実施されることはなかった)

○北海道の予報、警報の始まり

1880年2月27日 暴風警報 発令

1892年8月1日 札幌で天気予報を周知させるため、道庁の塔の上に旗を掲げた。

それらの色は 白は晴れ、赤は曇り、青は雨、緑は雪であった。

これは、小さな漁船が暴風雨により遭難が相次いだための要請を受けたことによる。

II 札幌の天気特性

○春の天気 3月—5月。実際は平年4月3日に根雪が融けるので春はその頃なのだが。

メイストリーム 低気圧がもたらす大規模な暴風雨。1954年北海道近海で漁船の遭難。犠牲者397名。

○夏の天気 6月—8月。リラ冷え 5月末—6月前半。オホーツクと太平洋側の寒気の影響で気温が下がる。

○秋の天気 9月—11月。台風 北海道では1年に2回近づき、2年に1回上陸。

○冬の天気 12月—翌2月。初雪の平年平均10月28日。初積雪11月8日。

講義は専門的な内容でこれを機に、興味を持たれた方も多かったのではないのでしょうか。

終了後、たくさんの方から質問がありました。

(文責 高木 秀子)



私達の住む日本、そして日本人とは

宮の沢 西尾 貞敏 氏

札幌、そして北海道にあった鉱山の話から始まり、金に纏わる話は、どんどん広がりま
した。

- ・ 権力の象徴としての金、外交手段としての金
- ・ 「続日本紀」から読み解く日本人の精神史
- ・ 縄文人、弥生人にみる日本人の先祖
- ・ 織田信長はなぜ金を狙ったのか？

すべての話が興味を惹くものばかりでしたが、紙面の都合から、ここにはその一部を掲載
します。



1. 中尊寺と奈良の大仏と金と

百済の王キョウフクの曾祖父デンコウが百済からその子孫一族をつれて奈良に入っ
てきた。その人数は3~4千人である。その中には技術者、書家、政治をつかさどる者、医者などさまざまな優秀な人材がいた。し
たがって、大和朝廷は百済の王を大事に扱った。デンコウは、曾孫であるキョウフクを東北に置き、陸奥（今の福島から北）を統
治させた。聖武天皇のときである。宮城県の涌谷からは金が出たので、これを奈良の大仏の鍍金に使う。百済の王キョウフクは「武」
にも「文」にも優れていた。これが東北の文化にどのような影響を与えたかということは、藤原清衡・基衡・秀衡が建立した中尊
寺を見れば理解できるであろう。

2. 外交に有効な金

日本は、遣唐使・遣隋使を中国に派遣している。そのときに持って行っている貢物にはいろいろなものがあるが、特に喜ばれた
のは砂金である。その代償として、日本は文化を取り入れてきたのである。彼らが長期滞在し優遇されたのは、持って行った砂金
のお陰である。藤原の黄金伝説も、この砂金に関わる話のひとつである。

3. マルコポーロと「黄金の国ジパング」

イタリアの商人マルコポーロが、シルクロードを通して元の国に入り、フビライに10年間仕え、母国イタリア（当時は小国の
争いが絶えず、まだ統一された国とはなっていなかった）へ帰る。帰ったとき、国は戦いの只中であり、マルコポーロは捕虜とし
て牢獄に閉じ込められることとなり、そこで「東方見聞録」を書く。その中に中国、インド、黄金の国ジパングのことが記される。
このことが世界に行き渡ることになり、日本は「黄金の国ジパング」として知られることになる。当時の世界地図に、黄金島があ
るという評判であったが、それは「黄金の国ジパング」のことであった。この「東方見聞録」をコロンブスが読み、地球が丸いこ
とに気づき、それを主張するようになった。

4. コロンブス、「黄金の国ジパング」を探す航海に

コロンブスは、「私は大西洋を航海して東へ向かい、黄金の国ジパング、インド、中国などから、香辛料、金などいろいろなも
のを持って帰ってくる」ということでスペインのイサベラ女王に援助を求める。イサベラ女王から船を3隻作ってもらい、120人
の船乗りを率いて出掛ける。2ヵ月半かけて島にたどりつくが、その島はキューバから少し離れたところの島であった。この島民

の酋長の身につけている装飾品を見て、この島はジパングだと勘違いをする。こ
れをイサベラ女王に報告すべく、そのとき島民が持っていた金を略奪し、ここ
の住民7名をつれて、1隻の船で帰る（2隻は島に残す）。コロンブスは、さら
に大きな船を与えられ、ジパングを探しあて、お前はそこの統治者となれと言わ
れて、軍隊をつれて出掛けることとなる。そして行き着いたところがメキシコで
あった。そこはインカの王国を築いた古代国であるが、原住民と渡り来た人たち
とでメキシコという国が創られて行った。

(文責：小田真二)

次回の子定

次回(9月11日)は、水落恒彦氏の「手
稲郷土史研究で学んだこと」と中山恒雄氏
の「江戸文化に関連して、芸能・芸術の発
掘過程」の研究発表を予定しております。

会場は、視聴覚室です。